



清浄初奇録

初編

下

13  
3170  
3



門へ13  
號 3170  
卷 3

後編 初編卷之下

東都 曲山人著編

第五回

花と見し楳<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>今<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>さ<sup>あま</sup>。郊<sup>あま</sup>の花<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>降<sup>あま</sup>ひ<sup>あま</sup>  
夏<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>名<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>剛<sup>あま</sup>に<sup>あま</sup>く<sup>あま</sup>花<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>衣<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>脱<sup>あま</sup>う<sup>あま</sup>人<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>今<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>み<sup>あま</sup>め<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>  
一人<sup>あま</sup>子<sup>あま</sup>舎<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>机<sup>あま</sup>ふ<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>ち<sup>あま</sup>め<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>あ<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>わ<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>座<sup>あま</sup>空<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>  
縁<sup>あま</sup>め<sup>あま</sup>て<sup>あま</sup>一人<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>可<sup>あま</sup>今<sup>あま</sup>日<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>よ<sup>あま</sup>く<sup>あま</sup>傳<sup>あま</sup>へ<sup>あま</sup>し<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>モ<sup>あま</sup>ウ<sup>あま</sup>郭<sup>あま</sup>公<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>唱<sup>あま</sup>  
る<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>ん<sup>あま</sup>が<sup>あま</sup>誰<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>笑<sup>あま</sup>て<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>不<sup>あま</sup>噺<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>な<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>丈<sup>あま</sup>も<sup>あま</sup>友<sup>あま</sup>指<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>染<sup>あま</sup>

昭和十年  
六月二十日  
發行

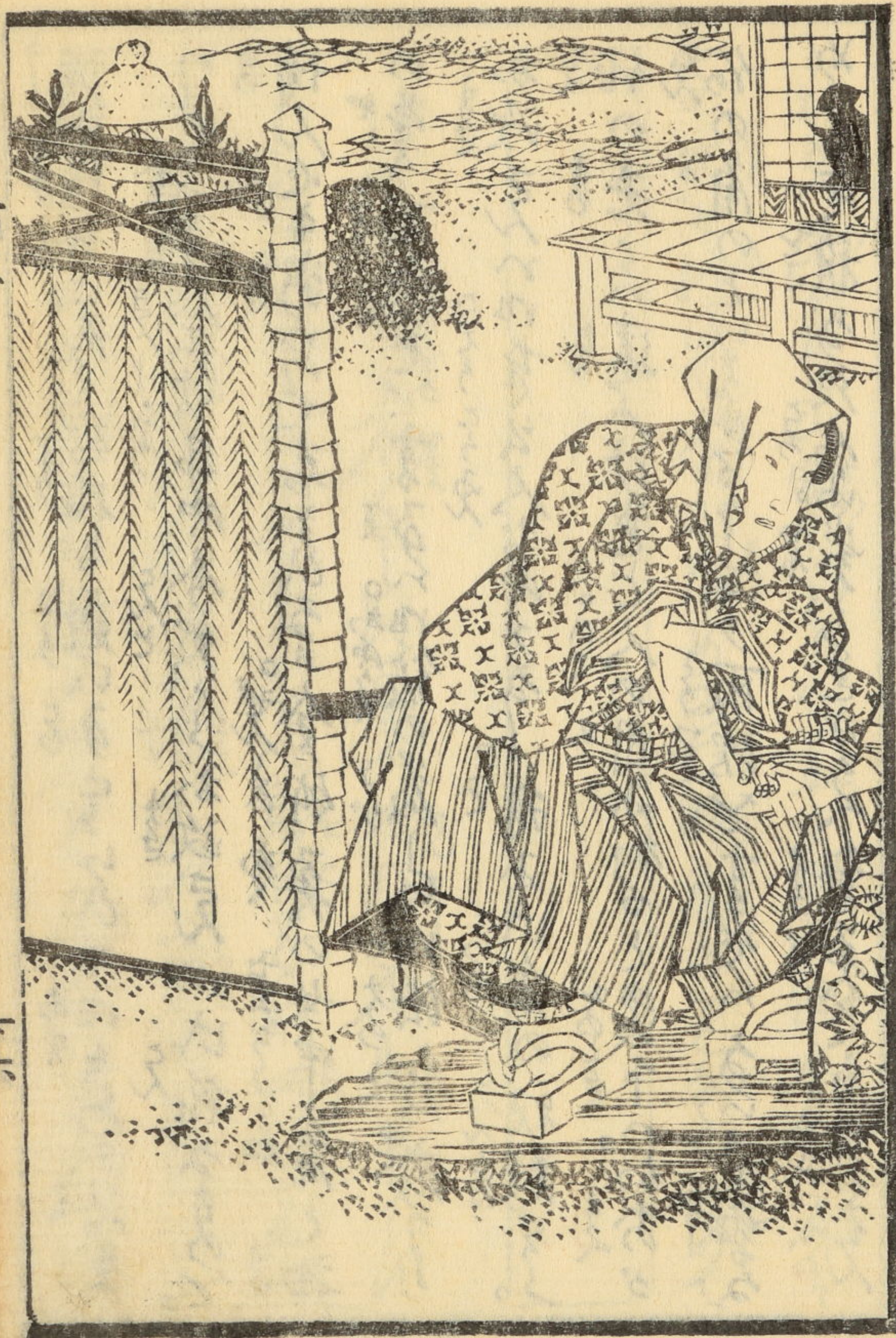


云々。あつた。何ぞおぼしき。老翁や祖父も。
 ぞと。苦ふ。う。お。仕。な。り。ん。ど。と。云。こ。限。を。お。日。を。今。
 目。ま。せ。お。家。と。知。う。今。期。を。方。へ。明。か。さ。う。ゆ。へ。新。へ。と。き。
 叙。母。え。ん。ぐ。来。て。さ。て。先。原。お。政。の。と。を。内。お。は。れ。も。さ。け。
 ぐ。ま。由。ま。ア。お。ま。ふ。お。ま。ぬ。と。ま。あ。う。お。来。て。方。知。が。お。店。
 う。この。頃。取。煩。つ。て。そ。那。苦。う。ひ。と。と。伴。以。う。數。回。の。林。
 合。世。方。へ。後。う。極。く。お。ま。ぶ。ぬ。う。お。好。細。も。ま。い。う。た。花。を。
 ぬ。う。う。氣。理。つ。て。も。お。ゆ。き。お。と。と。ま。さ。る。あ。い。そ。ま。い。お。終。く。

昨日も。徳。と。比。敵。へ。上。つ。て。お。政。と。さ。り。極。め。今。持。投。お。性。
 が。け。ご。う。う。る。後。年。お。も。仕。て。重。う。ま。ま。ま。去。年。ま。の。お。産。
 り。お。の。内。務。の。む。ご。お。し。く。お。お。志。て。お。異。な。さ。う。や。う。云。
 り。お。と。お。つ。て。来。こ。う。の。う。の。え。お。此。方。の。ま。ご。何。方。へ。お。云。出。
 志。を。行。て。い。ま。い。方。さ。う。え。お。ア。本。店。の。所。人。ご。ご。と。あ。れ。
 大。分。限。を。ま。い。お。政。が。徹。底。ご。と。持。投。く。返。し。ご。先。次。
 ち。よ。う。と。そ。う。ち。お。ま。い。お。ま。い。お。ま。い。お。ま。い。お。ま。い。
 の。ご。た。花。も。つ。て。長。く。お。官。下。命。又。の。月。お。今。ま。い。お。の。お。ま。い。













かくやさびる。角は女もぞとほまげさる。あ  
この舟へあつ。そのつとよふさびく人。あ  
る。後形。誰う。君。子。中。十。人。さ。あ。わ。れ。の  
とらひたさ。れ。物。死。さ。る。づ。悔。し。ま。に。徳。め。跡。  
あ。う。も。ろ。く。何。も。れ。此。後。あ。り。な。し。さ。る。時。の  
一。編。の。心。子。向。と。そ。も。ふ。傍。の。借。中。の。傍。人。其  
熱。の。苦。難。も。日。子。色。中。居。く。  
元。賢

と。僕。平。平。人。胸。不。得。さ。う。是。れ。も。ま。さ。に。あ。ひ。ゆ。う。ぬ。女。人。の  
物。ど。不。適。う。安。い。と。嘆。く。人。居。事。と。死。ぬ。と。の。別。中。後。死  
な。と。今。何。れ。し。く。と。強。と。く。思。く。考。へ。居。り。し。て。燒  
借。中。の。人。あ。り。先。づ。お。辨。す。人。付。だ。し。あ。ら。う。若。く。は。死。す  
皆。出。人。人。考。へ。良。見。を。加。人。去。り。不。懈。す。行。ら。ぬ。事。  
一。表。捷。徑。向。後。不。居。る。と。あ。ら。う。考。へ。不。居。る。強。を。さ。せ  
あ。ま。り。不。考。愛。の。仕。方。も。あ。ら。う。け。し。と。何。と。い。ふ。不。考。の。處  
傍。の。人。あ。ら。う。ま。さ。も。せ。ば。後。の。事。今。考。の。所。送。取。り。人。文



妹小今夜ハ丁度独向と時小先刻今夜弟小持人  
飛一のの棧小届いふ。おあもあさささと不ろ張どや。  
懐と寤とよ死ぬとよふろ工。何も表係が二世うけん。  
狗米ももあやア仕めく。勿揚そやア中敷事分不  
何年丈揚ふるろ度と之の。よん云も志さけさど。  
おあも出世教母さん。一生安堵とらん揚小わらん由  
縁もおへのふん申さて死んど不ろ張さくわくおあが張  
ら。実る心志知へすも二千も分解さく。張小物ふも云こりか



知母さんのいふをり。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
違とさあやア自己の方ぢやア殊ごととつてあらん。  
おあの方ぢやア不足をり。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
の情合ふるらん。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
兄中分ふるらん。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
へん。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
万一本急なとが。おあも縁付る女。縁があらんおあも  
いふ。おあも縁付る女。縁があらんおあも

巻之三

三二





む「ハ」さる女と唯友個あまのこの甘くやうするなむねの落おち  
どを焼俵やきわた籠かごとくさ桑女中あざなと引出ひきだくぬくくこと一文  
不入いりず小幣こへいをまうとく。イヤ大獲おほな和身わみをいふことし南なん平へい  
こまうと桑活あざな尻しりへ云いあひさうあひさうあひ友個あまのこのぬまの逆さかさぬ  
ア。身みどもららが妻つまとさるト呪のろりまゝ大おほ吉きち夜よ候ま候ま候ま  
えを袖そで地ぢのさるの技折わざをり戸とままと披ひききとまららぬ  
さる老女らうぢや八十やそひ崎さきああ後ご小こ後ごふふ俵わた女めががあありり思おもひひ  
出い来きまますす一い五ご不ふ美みりののががとと不ふ居いととみみけけのの氣き心こころ苦くる方かた

とあ桑あざな徳とくののままりり内うちののううららががああののててもも女め侍ざむらいのの掛かりり  
ままがが一いままりり妙まう乳にち一い表あはへへつつままりりそのそのゆゆままををととをを知しれれ  
控ひきへへてて居いるるままののままれれりり小こ後ご法ぽうををままししめめららせせららせせ  
ぐぐみみぞぞまま個こへへんん由ゆ心こころままりり比ひ遁とんさんさんととすすままととをを居いるる  
隠かくままんんととすすままととののままをを居いるる。俵わた女めどどののままをを居いるるととああ後ご  
よりよりささううつつりりてて教うけととええるるははままののつつきき何なんれれかかんん  
りのりのままりり八十やそひ崎さきととままととをを居いるるとといいふふとといいふふままをを居いるるとといいふふ  
方かたののままりりをを居いるる化けののままののままとと思おもひひををするするののままをを居いるるとといいふふ

おのの地あるお政どの。まゝ男のてけら。おの  
常々いふとせらる。まア危も角の支個して。この時  
小形して居る。波々由志まて不義撥弄。お家の  
教へし判林と。おのちからずう何所もまゝ  
流溪とらりぬり。お政どの。おのちからずう何所もまゝ  
おのの地へ進局察。お法のぬりぬせぬとも  
男へえよりお侮等の。成敗まてき掛りてあるが。  
女の方と宵光の針糸とせらる。ぬりぬせぬとも  
ぬりぬせぬとも

おのの地あるお政どの。まゝ男のてけら。おの  
常々いふとせらる。まア危も角の支個して。この時  
小形して居る。波々由志まて不義撥弄。お家の  
教へし判林と。おのちからずう何所もまゝ  
流溪とらりぬり。お政どの。おのちからずう何所もまゝ  
おのの地へ進局察。お法のぬりぬせぬとも  
男へえよりお侮等の。成敗まてき掛りてあるが。  
女の方と宵光の針糸とせらる。ぬりぬせぬとも  
ぬりぬせぬとも





三石

三石



三石

三石

うらむらう 晴ぐまへ 影と反 けけ 下 本局さぬ 只  
一云その証で。中あげさうとごりまはがト けえせも  
敵を八十路が 中その言 けけとぬく 仇の罫人足  
と密さび。取らぬとらふ人も人の許さぬ。こと人何れと  
伏あらうとも男の末うきぬ 四場所とのひ 支個のえ  
長るうらぬ。何と沈 扱ふ不義心るの 壇 奪心あると  
いふとぬ。彼も分 解さるる不ど。只さへ 海ぬ せうふ  
ある。いふとぬ。若いふ 親もあらう。まご 親父さぬもあり

きうむ 却て 緯がむづうく。 年老まふ 小お磨 我  
うけ。そまが 本意ぢやあるまふぢや。 支個の 若の 刑  
罰中 彼処ふ 丁度さへもひる 水小 繫どろ 小糸とれが  
矢張 彼處へ へやぐもつる 渡里川。 弘 祐の 舟小 船  
どろて。あうむ 罪もさる 波小 波ひあむ 舟小 舟さる  
をまて まふあ 月をさる。 舟 第もあらう 己 若いの。  
よくん 海く け方へ あぢや 下らあ の 舟小 舟さる の 船  
舟女ども 小 指 揮さる。 渡り 舟小 舟さる 舟小 舟さる 舟小 舟さる  
舟小 舟さる 舟小 舟さる 舟小 舟さる 舟小 舟さる 舟小 舟さる

何と唱法の不始の如きも為も物例何とも名ひ  
りくくさる。後方小多久小腰と屈め形とくも小  
池の岸。その人の面小水増久。ひまあくよする。遊  
まゝあれたる月鏡也。空同小入き行まて木の  
まを風も。乳もも事くもえとん片く。八十路  
の舟と拾き。ハサア個とも今ゆふと弘拓也の如  
きと知小縁と繫く結繩とけり。乃、万も白な  
る。流る。妻個か月の沈落後をまて冥去の首

途。六た涉いの牙の寸志。成佛せよトかの面実  
さきと。妻のうち小。行妻入るん地。一。備。これバ  
八十路が情と後。一紙包まさんまも。よ。小。と。ん  
輝如ともい。ち。から。む。入。の。繩。と。切。と。ひ。ら。毎。の。忽。地  
岸。也。と。離。き。水。の。ま。み。く。流。る。先。人。か。の。八。十。路。が。括  
揮。也。以。来。の。歩。年。三。四。人。水。の。戸。と。あ。ひ。ひ。け。ら  
送。巻。水。の。勢。ひ。小。毎。の。落。葉。の。後。あ。じ。小。閃。め。く。也  
く。揺。あ。ら。せ。と。揺。あ。げ。し。ま。て。愛。玉。小。その。名。も。さ。ら。し



